

H30年 年始訓示

皆さん、新年明けましておめでとうございます。
清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年末年始は、リフレッシュできましたか？やはり、この時期は何となく気忙しく、ゆっくりできた感じではなかったのかもしれませんが、新年という節目ですら、気持ちを新たにして今年も一年間ともに頑張ってみましょう。

今年も、年明けから穏やかな日が続いていました。相変わらず事件・事故等は起きていましたが、災害等もなく、このまま安寧な一年であればなあと考えておりました。そして、この時期の話題と言えば、駅伝やサッカー、ラグビー等のスポーツだと思いますが、昨日は明秀日立高校サッカー部がベスト8進出を決めてくれました。しかも、チームの10番が東海中学校出身の伊里隼人君だということで嬉しさが倍増しました。頂点を目指しての更なる活躍を期待するとともに、皆さんで応援しましょう。

さて、年頭のあいさつということで、今年の村政について、いくつか申し上げておきたいと思います。

今年も、いよいよ国体に向けてのプレ大会が行われます。このプレ大会が本番に向けて大変重要であると言われており、改めて、その準備に万全を尽くしていかなければなりません。ホッケー競技の運営や選手等関係者へのサポートについては、先催県を参考にしながら対応していくことになると思われませんが、本番にむけての機運醸成やおもてなしといった面では、役場だけでなく、広く村民の参加が必要となって参ります。何度も申し上げておりましたが、担当課だけの問題ではありませんので、全職員には今一度意識を高めてもらいたいと思います。今年度のプレ大会の成功なくして来年の国体成功はありませんので、是非やり遂げましょう。

社会保障制度においては、今年が、6年に一度の医療と介護、診療報酬と介護報酬の同時改定時期となります。加えて、国民健康保険事業が県移管となることもあり、大きな節目を迎えることとなります。本村にとりましても、医療費や介護給付費の見込みに基づき、適正な国民健康保険税や介護保険料を算定しているところではありますが、村民の負担に直結し、関心の高い部分でありますので、議会をはじめ丁寧に進めていかなければなりません。できるだけスムーズに新年度がスタートできるよう、努力してまいりましょう。

子育て支援においては、病児・病後児保育施設の整備が本格化してまいります。期待が大きい施設でもありますので、ハード整備はもちろんのこと、利用者のニーズを踏まえながら運営体制の準備も進めてまいりたいと考えております。また、待機児童解消問題につきましては、受け皿の整備が間に合わないこともあり、まだ厳しい状況が続くと思われませんが、引き続き、関係機関との連携を図りながら対応していかねばなりません。一方、第1子の子育て時期は不安等も多くなることから、「はぐくみ」でのサポートをはじめとした育児支援が必要となってまいります。さらに、子育てしやすい村として、子育て世代の皆さんを応援してまいりましょう。

本村の高齢化率は24%を超え、65歳以上の人口も間もなく1万人を突破する見込みとなりました。第7期の高齢者福祉計画もスタートするところであり、引き続き、地域包括ケアシステムの整備に取り組むとともに、認知症予防対策も充実させていかねばなりません。自治会等での取り組みも始まったところであり、地域で支える体制も支援していきながら、介護予防や生きがいを充実させてまいりたいと考えております。

本村の産業振興と言えば、商工観光振興と農業振興であると思いますが、本年は、さらに、新たな領域にも取り組んでまいりたいと考えております。本村は原子力研究開発の拠点でありながら、その研究開発の成果がなかなか産業化に結びついていないという現実がありました。新たな技術開発が新しい市場を開拓し、新産業として仕事や雇用を生み出すこととなります。本村にとっての新たなチャレンジとなりますが、積極的に取り組んで参りたいと考えているところです。なお、地域経済の活性化という面では、引き続き、商工会や観光協会への支援を通して、街を元気にする取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、農業政策においては、改めて、農業公社設立に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。今後ますます後継者問題や耕作放棄地対策への対応が求められる中、公社は必要であると考えているところであり、村民の皆様にご理解頂けるよう、公社のあり方等を精査してまいります。

地域における「未来ビジョン」づくりは、私の公約として掲げたものでありますが、地域の方々との対話を通して将来を考えてみたいと思っています。それぞれの地域には、活躍されているキーパーソンが何人かおられますが、地域の皆さんの想いを形にすることが出来れば、地域に活力が生まれ、持続可能な地域社会が形成できるものと確信しているところです。

原子力政策においては、東海第二発電所に関する広域避難計画の策定が大きい

な課題とはなっておりますが、一つ一つ課題を整理しながら、計画への理解を深めてもらえるよう取り組んでまいります。一方で、村内に立地する原子力事業所に対しましては、昨年のJAEA大洗研究開発センターでの事故を教訓としながら、改めて、安全第一であるという基本姿勢を徹底していかなければならないと感じているところであります。

都市基盤整備の分野においては、国道245号線の拡幅工事が順調に進められるものと期待しておりますが、用地交渉等では村も積極的に協力していかなければならないと考えております。また、国道6号線の拡幅については、この一年で進捗が見られず、今年では更なる工夫が必要となりますので、ともに知恵を出しながら前に進めてまいりましょう。

また、阿漕ヶ浦公園の整備や東海駅西口の再整備は順調に進められておりますが、中央地区の土地区画整理事業もその進捗を図っていかなければならないと考えているところであります。

なお、阿漕ヶ浦周辺地域の活性化策の検討については、そろそろ結論を出す時期に来ているものと感じており、関係者の意向を確認しながら取り纏めてまいりたいと考えております。

最後に、「(仮称)歴史と未来の交流館」整備事業ですが、今年では正念場かなと考えております。実施設計に着手するとはいえ、基本設計終了時点からの見直し内容や交流機能の強化も課題でありますので、引き続き検討を重ね、早期に設計内容を固めてまいりましょう。年末にも申し上げましたが、村民の皆さんに親しんでもらえる交流館となるよう丁寧に取り組んでまいります。

今申し上げたもの以外にも、平成30年度に向けては、既に「村長ミッション」を示して取り組んでもらっているところでありますし、各課における課題解決と合わせ、皆さんには、与えられた職務に全力であたっていただきたいと思えます。

なお、毎年申し上げていることですが、心身の健康管理は、職員一人ひとりが充分注意して頂くとともに、管理職の皆さんには、部下の様子に細心の注意を払ってもらいたいと思えます。

結びに、今年一年が、皆さんにとって良い年になりますように、そして村としてもすばらしい年になりますよう祈念いたしまして、年頭のあいさついたします。今年も一緒に頑張りましょう。